

# 平成25年度（特例民法法人最終事業年度） 事業報告書

平成25年4月1日～平成25年12月1日

付：公益移行後事業計画書

平成25年12月2日～平成26年3月31日

公益財団法人全国青少年教化協議会

# 事業報告目次

## I 教化事業（公益目的事業1）

- 1 青少年健全育成推進事業 . . . . . P. 1～P. 3
  - （1）仏教子ども会活動の推進事業 . . . . . P. 1
  - （2）青少年教化研修会等の開催事業 . . . . . P. 1
  - （3）青少幼年支援ネットワーク拡充事業 . . . . . P. 1～P. 2
  - （4）教化活動広報事業 . . . . . P. 3
- 2 公益活動推進事業 . . . . . P. 3～P. 6
- 3 臨床仏教研究所運営事業 . . . . . P. 6～P. 8
- 4 出版事業 . . . . . P. 8

## II 表彰事業（公益目的事業2） . . . . . P. 9～P. 10

## III 災害支援事業（公益目的事業3） . . . . . P. 10

## IV 管理 . . . . . P. 11

## 事業報告書付属明細書 . . . . . P. 12

# 平成25年度事業報告

(平成25年4月1日～平成25年12月1日)

平成25年度事業は、平成25年2月4日開催「平成24年度第3回理事会及び第2回評議員会」において承認された事業計画書に基づいて下記の通り実行した。

今年度は公益法人への移行を目指し、平成25年4月18日に移行申請を行い、11月28日に認定、12月2日に公益財団法人への移行登記を完了することができた。これに伴い、特例民法法人としての財団法人全国青少年教化協議会は12月1日をもって解散し、同日付で平成25年度の決算を行った。新法人の事業計画としては旧法人のものを踏襲する。

## I 教化事業（公益目的事業1）

仏教精神に基づき青少年をはじめとするすべての人々の心身と人格の健全な向上を図る事業

### 1 青少年健全育成推進事業

#### (1) 仏教子ども会活動の推進事業

##### ①成道会全国こども大会の開催推進

12月上旬の日曜日を中心に、全国100会場で合計10,000人の参加を目標に、全青協制定「仏教の人間像」6項目に照らしてテーマを設け、リーフレット（平成25年度テーマ「つながりあっていきてるの」）を作成し、開催をよびかけた。全青協及び府県青少協の会員が開催する「成道会全国子ども大会」開催地にリーフレット、ポスター及び読売新聞社と日本テレビからの助成品（文具）を11月中旬に配布した。

#### (2) 青少年教化研修会等の開催事業

##### ①「いじめ・虐待・体罰のない社会について考える～イギリスの取り組みに学ぶ～」

創立50周年記念事業の一環として、NPO法人ひろしまチャイルドライン子どもステーションとの共催で虐待や子どもの貧困問題などの社会的な課題に対して、「子どもを中心に置いた社会」づくりをテーマに子どもが育つ環境、子ども支援を考えるフォーラムを開催した。

※日 時＝平成25年10月29日（火）

※会 場＝広島YMCAコンベンションホール

※講 師＝ピーター・ライバー氏（NSPCC（イギリス児童虐待防止協会）ディレクター）

※内 容＝「子どもを中心に置いた社会」づくりについてイギリスの取り組みから学ぶ

※参加者＝約50名

#### (3) 青少幼年支援ネットワーク拡充事業

##### ①青少幼年教化活動の調査・情報収集及び発信とNPO（市民団体）との活動連携

A) 青少年教化活動者の活動内容の調査、情報収集

日曜学校など青少年教化活動を行っている寺院の活動状況を、聞き取り調査した。

B) 不登校・ひきこもり関連団体に関する情報収集

てらネットENのネットワーク拡充に向け、不登校・ひきこもりの問題に取り組む寺院及び民間団体に関する情報収集を、対面、インターネット、電話、刊行物を通じて行った。

C) 仏教団体、仏教系大学サークルの情報収集と活動の連携

各仏教系大学の児童研究会などを中心に、全青協の案内、研修会の案内などを送付した。又、サークル役員と日曜学校・子ども会の新たな展開方法について検討した。

D) 子ども支援系NPO等との情報交換及び活動の連携

「認定非営利活動法人チャイルドライン支援センター」「公益社団法人シャンティ国際ボランティア会」をはじめ、青少年の健全育成や子育て支援について活動を行っているNPO・NGO、社会福祉協議会等との情報交換を促進し、活動の連携を行った。

E) 貧困母子家庭児童および自死遺児支援プログラムに関する調査

子どもを持つ家庭の貧困率上昇や近年の自殺者の増加傾向に伴い、貧困家庭児童および自死遺児支援プログラムに関して継続的に調査を行った。特に被災地における現状の把握に務め、あおぞら奨学基金をはじめとする支援活動につなげた。

②活動寺院・団体等との活動連携

A) よみうりランド仏舎利法要開催への協力

協力企業のよみうりランドが主催して毎年開催されている「仏舎利法要」に対して、職員が出仕し、同聖地公園にて法要を執り行った。

※日 時＝平成25年5月22日（水）

※会 場＝よみうりランド聖地公園（東京都稲城市）

③加盟教団との活動提携、連携

加盟教団等からの要請に応じて講師を派遣し、講演・ワークショップを行った。又、必要に応じて資料の提供や情報交換を行い、加盟教団等の主催事業に参加・協力した。

A) 講師派遣

平成25年4月16日（火） 草加南無の会講演会（埼玉県）

平成25年7月22日（月） 日本仏教保育協会夏期保育講習会（東京都）

平成25年10月4日（金） 浄土宗ともいき財団電話相談員研修会（東京都）

平成25年10月10日（木） 愛知学院大学禅研究所公開研究会（東京都）

B) 加盟教団・関係諸団体主催式典等への参加及び協力

平成25年8月6日（火） 曹洞宗書道展（東京都）

平成25年8月24日（土）・25日（日） 天台宗戸津説法（滋賀県）

平成25年10月25日（金） 公益社団法人全日本仏教婦人連盟創立60周年記念式典（東京都）

平成25年11月17日（日） 兵庫・生と死を考える会設立25周年記念祝賀会（兵庫県）

平成25年11月22日（金） 建長寺開基北条時頼750回忌（神奈川県）

#### (4) 教化活動広報事業

##### ①公式ホームページの全面リニューアル

全青協創立50周年記念事業の一環として、公式ホームページの全面リニューアル、またフェイスブック等各種ソーシャルメディアを利用して青少幼年問題や活動者に関する情報を収集し、全青協の活動情報と合わせて情報の発信を行った。

##### ②創立50周年記念書籍の発行

全青協創立50年の教化活動の歴史を踏まえ、現代社会における教化活動のあり方について提起する記念書籍を刊行した。今年度より始動した臨床仏教師養成プログラムの講座内容をもとに編纂。

※書名＝全青協創立50周年記念出版 『「臨床仏教」入門』

※内容＝

- ◎臨床仏教の検証 神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）
  - ◎さまよう若者 和田重良（NPO法人くだけかけ会代表）
  - ◎共に生きる社会をめざして 吉水岳彦（社会慈業委員会ひとさじの会事務局長）
  - ◎ターミナルケア 大河内大博（いのち臨床仏教者の会副代表）
  - ◎仏教と災害支援 辻 雅榮（高野山足湯隊代表）
  - ◎ネットワーキング型支援の可能性 島藺 進（宗教者災害支援連絡会代表）
  - ◎「無縁社会」から「有縁社会」へ 袴田俊英（心といのちを考える会会長）
  - ◎なぜ犯罪は起こるのか？ 深井三洋子（立川拘置所教諭師）
  - ◎「破壊カルト」に走る人びと 楠山泰道（日本脱カルト協会理事）
  - ◎現代社会と臨床仏教《開講記念シンポジウム》
    - 千石真理（京都大学こころの未来研究センター研究員）
    - 藤尾聡允（自死・自殺に向き合う僧侶の会副代表）
    - ジョナサン・ワッツ（臨床仏教研究所研究員）
    - 蓑輪顕量（東京大学大学院教授）
    - 神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）
  - ◎全青協活動と臨床仏教 齋藤昭俊（臨床仏教研究所所長）
  - ◎年表 ほか
- ※出版社＝白馬社
- ※部 数＝1000部

##### ③「Web現代名僧墨蹟展」の運営

伝統仏教各宗派管長、大本山貫首をはじめとする高僧・名僧、また、茶道家元ら文化人より寄せられた書画作品をホームページ上に掲載し、広く一般の人々が心の安らぎや豊かさを感得できるようにした。

## 2 公益活動推進事業

### (1) てらネットEN関連事業の実施

### ①不登校・ひきこもり当事者の家族を対象とした親学セミナーの開催

「寺子屋ふぁみりあ—ひきこもり状態にある当事者の家族（親）のためのセミナー」

全国に100万人いるともいわれるひきこもり当事者。全青協はこれまでひきこもりや不登校の問題に継続的に取り組んできたが、平成22年度からは、ひきこもり当事者の家族（親）に向けてのセミナーを実施している。セミナーでは現場経験が豊富で専門的な知識を有する講師を招いての講義、また仏教的な体験を通じて精神的な安定が得られるように、読経や法話、慈悲の瞑想などを行っている。そして参加者同士によるグループトークの時間を設け、相互の心情に共感することで各自の孤立感を軽減している。平成25年度は昨年度に引き続き、浄土真宗本願寺派「御同朋の社会をめざす運動」東京教区委員会との共催により開催した。

※会 場＝築地本願寺（東京都中央区）

※主 催＝本財団、浄土真宗本願寺派「御同朋の社会をめざす運動」東京教区委員会

- |            |   |
|------------|---|
| 平成25年5月2日  | 演題「本当のしあわせ」<br>講師 柳川真理子（「自死・自殺に向き合う僧侶の会」代表）             |
| 平成25年6月6日  | 演題「あらためて「ひきこもり」を考えてみる」<br>講師 菱沼智明（社会福祉士）                |
| 平成25年7月4日  | 演題「ひきこもる若者たちの実態～その背景要因と対応策について～」<br>講師 高塚雄介（明星大学人文学部教授） |
| 平成25年8月1日  | 演題「高年齢化するひきこもりの人たちの思い」<br>講師 池上正樹（ジャーナリスト）              |
| 平成25年9月5日  | 演題「大切なことって何だろう？」<br>講師 細川真彦（浄土真宗本願寺派覚證寺住職）              |
| 平成25年10月4日 | 建長寺遠足<br>「座禅、写経の体験を通じ、ご自身の心の内をじっくりみつめてほしい」              |
| 平成25年11月7日 | 演題「一步踏み出した人たち」<br>講師 和田重良（NPO法人くだけかけ会）                  |

### ②「寺子屋ふぁみりあ」のブログ及びホームページの運営

ひきこもり状態にある当事者の家族向けのセミナー「寺子屋ふぁみりあ」の講演内容等を広く一般に発信し、この問題についての啓発を図ると共に、参加者以外の同じ問題を抱える家族（親）が認識を共有し、問題解決・軽減の一助となることを期してブログ及びホームページを運営した。

### ③就労支援プログラムの実施

「ご縁つながり隊」の運営

ひきこもりやニートの当事者が社会参加するための足がかりとして、就労支援活動を行った。

※日 時＝平成25年5月より週1日程度

※会 場＝全青協事務局

※内 容＝機関誌『ぴっばら』の発送作業など軽度の作業及びPCを使った事務作業をしながら、当事者が他の当事者や本財団職員と会話を交わすことで、コミュニケーション能力及び作業スキルの向上を目指す。

#### ④相談窓口の設置・運営

A) 不登校やひきこもり、自死念慮など青少年やその家族が抱える悩みに対応すべく、全青協内に電話相談窓口を開設し、当事者や家族に対してカウンセリングを行った。又、併せて電話相談窓口の開設を希望する青年僧をOJT形式の研修方法により育成した。

#### B) こころの相談室の運営

全青協内に不登校や非行、ひきこもり、精神疾患などの悩みを抱える当事者やその家族を対象とした来所相談室を開設。通常の電話相談では対応できない場合などに随時面接を行った。

#### ⑤浄土宗ともいき財団（旧：浄土宗報恩明照会）「心といのちの電話相談室」開設事業協力

浄土宗ともいき財団が「心といのちの電話相談室」を開設するにあたり、企画、運営、研修に関して協力をを行った。特に研修に関しては、講座の内容および講師の選定、全青協スタッフの出講を含めて全面的に協力した。

※開設日程＝平成25年4月1日（月）～（以降毎週月曜日午前10時～午後4時）

※会 場＝東京都港区・明照会館内

#### ⑥「てらネットEN」世話人会および連絡会議の開催

平成25年度てらネットEN連絡会議を開催し、てらネットENに加盟する寺院・団体の代表者が参加した。又、外部講師を招き子どもを巡る情報の把握に努めた。

※日 時＝平成25年7月29日（月）

※会 場＝曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※議 題＝てらネットEN加盟各寺院・団体の活動の現況報告及び今後の活動の方向について

※講 師＝山野 良一（千葉明德短期大学教授・元児童相談所児童福祉司・なくそう子どもの貧困共同代表）

#### ⑦てらネットENパンフレット・小冊子の配布

てらネットENでは、ひきこもりの問題について正しい理解がなされて支援の輪が広がり、寺院などにおいては当事者や家族からの相談に対して適切な対応をするための一助となり得ることを期して、ひきこもりについての基礎的な知識や対処法などを掲載した小冊子を、加盟教団・青少協・不登校ひきこもり支援団体等の要請に応じて配布した。

#### (2)「仏教子ども家庭支援センター（仮称）」開設へ向けての調査・企画立案

創立50周年記念事業の一環として、不登校やひきこもり、自死念慮、児童虐待、DV、発達障害他、青少年や親等が直面する多様な問題に対して仏教情操教育をベースに当事者をサポートする支援センターの開設に向けて調査及び企画立案を行った。

### (3) 「ぴっばら国際児童基金」の運営

公益社団法人全日本仏教婦人連盟と共同で、ワラナシ（ベナレス）等でストリートチルドレンやスラムで暮らす子どもたちを対象に、チャイルドサポーター（里親）制度の運営を行った。

又、サルナートにおける被虐待児童のシェルターの運営、校舎の建設他、北部ラダックにおいても、教育を受けることのできない遊牧民の子どもたち等を対象に、教育・福祉・医療の面で支援を行った。

## 3 臨床仏教研究所運営事業

### (1) 臨床仏教師養成プログラム

—仏教者は現代社会のなかで人びとのところにどのように寄り添うことができるのか—

平成25年度から現代社会の生老病死にまつわるさまざまな苦悩と向き合い、専門的な知識や実践経験をもとに行動する臨床仏教師を養成するプログラム（座学（公開講座）⇒ワークショップ⇒実践研修（OJT））を開始した。

#### ①座学（臨床仏教公開講座）開催

創立50周年事業の一環として、「臨床仏教」「児童虐待」「ひきこもり」「自死」「貧困」「ターミナルケア」「災害と仏教」など、現代社会における臨床的テーマを取り上げ、5月より毎週1回、全10回の連続公開講座を開催した。

※会場＝東京大学仏教青年会会館ホール

第1講：平成25年5月2日 開講記念シンポジウム

○演題 「現代社会と臨床仏教」

○パネリスト 千石真理（京都大学こころの未来研究センター研究員）

藤尾聡允（自死・自殺に向き合う僧侶の会副代表）

ジョナサン・ワッツ（臨床仏教研究所研究員）

○コメンテーター 蓑輪顕量（東京大学大学院教授）

○コーディネーター 神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

第2講：平成25年5月15日

○演題 「さまよう若者～不登校・ひきこもり問題を視る～」

○講師 和田重良（NPO法人くだけかけ会代表）

第3講：平成25年5月22日

○演題 「共に生きる社会を目指して～路上生活者支援に学ぶ～」

○講師 吉水岳彦（社会事業委員会ひとさじの会）

第4講：平成25年5月29日

○演題 「ターミナルケア～医療の現場に関わる仏教者～」

○講師 大河内大博（いのち臨床仏教者の会副代表）

第5講：平成25年6月5日

○演題 「仏教と災害支援～足湯と傾聴から見えたもの～」

○講師 辻 雅榮（高野山足湯隊）

第6講：平成25年6月12日

○演題 「つながる宗教者～ネットワーキング型支援の可能性～」

○講師 島藺 進（宗教者災害支援連絡会代表）

第7講：平成25年6月19日

○演題 「「無縁社会」から「有縁社会」へ～過疎化・自死・孤独死～」

○講師 袴田俊英（心といのちを考える会会長）

第8講：平成25年6月26日

○演題 「なぜ犯罪は起こるのか？～教誨師からみたところと社会～」

○講師 深井三洋子（立川拘置所教誨師）

第9講：平成25年7月3日

○演題 「「破壊カルト」に走る人々～宗教が苦となる現場～」

○講師 楠山泰道（日本脱カルト協会（JSCPR）理事）

第10講：平成25年7月10日

○演題 「現代における臨床仏教師の役割」

○講師 神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

## ②ワークショップ課程

座学（公開講座）で学んだ生死病死の「今」を踏まえたうえで、現場において相手のところに深く寄り添い、また自分自身が燃え尽きてしまうことのないようにケアのあり方を理解し、活動のベースとなる技法を基礎から体系的に学ぶワークショップを、10月より隔週1回の頻度で全8回開催した。

※会場＝東京大学仏教青年会会館ホール

第1講：平成25年10月2日

○演題 「仏教カウンセリング・傾聴法」

○講師 神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

第2講：平成25年10月16日

○演題 「セルフケア／チームケア」

○講師 大河内大博（いのち臨床仏教者の会副代表）

第3講：平成25年11月6日

○演題 「コミュニケーショントレーニング」

○講師 神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

第4講：平成25年11月20日

○演題 「トラウマケア／対人関係療法」

○講師 水島広子（精神科医）

## (2) 臨床仏教師（臨床仏教カウンセラー）資格認定制度設立へ向けての調査

創立50周年記念事業の一環として、教育・福祉・医療などの臨床現場において、仏教精神に基づいた心理的・精神的ケアを行うことのできる臨床仏教カウンセラーの資格制度設立へ向けた調査・準備を進めた。

特に国内外の仏教福祉系の施設や団体を訪問し、情報交換すると共に、臨床仏教師の活動の場を開拓することに務めた。

平成25年4月19日（金）～30日（火）国立台湾大学附属台北病院、法鼓山大学、慈濟会病院他（台北）

平成25年6月28日（金）社会福祉法人てまり学園（神奈川県）

平成25年7月12日（金）佼成病院緩和ケア病棟（東京都）

平成25年7月18日（木）～21日（日）NSPCC（イギリス子ども虐待防止センター）、セントクリストファーホスピス他（ロンドン）

### （3）臨床仏教研究所 公式ホームページの制作

創立50周年記念事業の一環として、臨床仏教研究所のホームページを新規制作し、フェイスブック等各種ソーシャルメディアと連動して情報の発信を行った。

## 4 出版事業

### （1）機関誌『ぴっぱら』の発行状況

#### ①月別発行部数

月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	平均発行部数
5-6	6,300	7-8	10,400	9-10	7,800	11-12	6,300	7,700部

#### ②『ぴっぱら』「特集」テーマ一覧

月	テ ー マ
5-6	発達障がい？ それとも個性？ —「グレーゾーン」の子どもたち
7-8	「社会の子ども」を育もう —子どもの貧困に向き合うために
9-10	こころとこころが触れ合うとき —音楽療法の視点から
11-12	今、私たちにできることは —コミュニティの再構築を目指して

### （2）書籍・教材発行と調査及び研究、広報

青少幼年向けの各種教材を発行。花まつりぬりえ、花まつりシール、風船、ポスター及び甘茶クッキーなどを頒布した。

#### ①教材等の製作

##### A) 甘茶クッキー

甘茶クッキーを「おかし屋ぱれっと」（障がいの者の自立支援を行うNPO法人）と共同開発し頒布した。

## Ⅱ 表彰事業（公益目的事業２）

青少幼年の健全育成に尽力し、社会の情操教育振興に功績のあった個人及び団体を表彰する事業

### （１）『正力松太郎賞』の実施

仏教精神に基づき、長年にわたって青少幼年の宗教情操の育成に尽力して顕著な実績をあげ、今後も活躍が期待される個人・団体に本賞を、また若手の僧侶および活動者を対象として青年奨励賞を授与した。そして第３７回では特別表彰として、先に発生した東日本大震災における支援活動に尽力した個人・団体に震災支援功労賞を、また大学内で活動する児童教化団体に児童教化功労賞を授与した。

#### ①「第３７回正力松太郎賞」の表彰

※受賞者

[本賞] ・今里晃玄（浄土真宗本願寺派教専寺住職／香川県坂出市）

・宇野全匡（曹洞宗地福寺住職／山形県大石田町）

[青年奨励賞] ・大河内大博（浄土宗願生寺副住職／大阪府大阪市）

[震災支援功労賞] ・石原 顕正

・スジャータプロジェクト（代表・渡辺光成）

・上伊那仏教会青年部（代表・岸 浩成）

・浜〇かふえ（代表・柳内悦大）

・Terra Net（代表・堀 眞哲）

・Cafe de Monk（代表・金田諦應）

[児童教化功労賞] ・鶴見大学児童文化部みつる会

・佛教大学児童教化研究部

・立正大学児童文化研究部

※後 援＝読売新聞東京本社、日本テレビ放送網、よみうりランド、報知新聞社

※表彰式＝平成２５年１１月５日（火）

※会 場＝東京都千代田区・帝国ホテル

### （２）全青協創立５０周年記念表彰の実施

創立５０周年記念事業の一環として、仏教精神に基づく青少幼年健全育成事業を促進する上で支援を受けた加盟教団・特別賛助会員及び企業へ感謝状を贈呈した

※記念表彰受賞者＝全青協加盟教団（４４宗派）・特別賛助会員（２９会員）・読売グループ（４社）

※表彰式＝平成２５年１１月５日（火）

※会 場＝東京都千代田区・帝国ホテル

### （３）優秀表彰の実施

情操教育を目的とした書道・絵画等を通じ優秀な成績をおさめた児童・生徒への表彰、又、青少幼年の健全育成に貢献した個人及び団体を表彰した。

- ・曹洞宗主催「第47回青少年書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・大正大学書道研究部主催「第62回全国書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・炎天寺一茶まつり委員会主催「平成25年度全国小中学生俳句大会」を後援、全青協賞を授与。

### Ⅲ 災害支援事業（公益目的事業3）

国内外の自然災害に際する緊急支援及び復興支援を行う事業

#### （1）東日本大震災復興支援事業

仙台災害支援センター等を拠点として、被災地の方々、特に子どもたちや高齢者の方々のニーズに応えるべく、精神的なケアにつながる支援を主とした活動を行った。

##### ①高齢者の孤独死・自死防止活動

被災地の仮設住宅を定期的に巡回しながら、集会所や談話室でハーブティーサロンや生け花会などを開催、又スタッフによる歌のコンサート、バルーンアートなどの催し物を行い、孤立しがちな高齢者の心身のケアに継続的に取り組んだ。

##### ②被災児童を対象とするトラウマケア活動

仮設住宅各所で子ども会を開催しながら、被災児童の心の状態の把握に努め、遊びやレクリエーションを通じたトラウマケア活動に取り組んだ。

##### ③「あおぞら奨学基金」の設立・運営

創立50周年記念事業の一環として、一般財団法人杉浦ブラムチャリヤ、公益社団法人全日本仏教婦人連盟と協働して「あおぞら奨学基金」を設立。東日本大震災で就学困難になった高校生のための給付型奨学金支給事業を基金事務局として運営を行った。平成25年度は宮城県石巻市の高校生39名を対象に、月々1万円の奨学金を給付した。

##### ④被災地の高校生等を対象に、こころのケアと進路支援を目的とした小冊子の配布及びコミュニケーションスキルアップ講座を石巻市内公民館及び寺院で開催をした。

平成25年8月5日（月）宮城県石巻市西光寺

平成25年8月7日（水）宮城県石巻市中央公民館

##### ⑤被災地で活動する支援者のこころのケアを目的に、傾聴とセルフケアに関する講座を開催した。

平成25年11月14日（木）宮城県山元町徳本寺

平成25年11月15日（金）岩手県釜石町みんなの家

## IV 管理

### (1) 組織の充実・拡充

理事会及び評議員会、青少協代表者会議の席上、会員拡充への協力を依頼した。又、各宗派の教化研修会等において全青協の資料を配布し入会案内を行った。

会員数は平成25年11月末日現在、939名。内訳は「会員」413名、「活動会員」278名、「賛助会員」219名、「特別賛助会員」29名。

### (2) 公益認定申請

平成20年12月1日に施行されたいわゆる公益法人改革関連3法のもとで、平成25年12月2日に移行登記をした。

### (3) 創立50周年記念事業

財団設立認可50周年を迎えるに当たり、平成24年度に記念事業委員会より答申された事業企画案をもとに、記念事業を実施した。

#### 【記念事業】

- ①記念フォーラム（青少年健全育成推進事業（研修会）記載）  
「いじめ・虐待・体罰のない社会について考える～イギリスの取り組みに学ぶ～」
- ②公式ホームページの全面リニューアル（青少年健全育成推進事業（教化活動広報）記載）
- ③創立50周年記念書籍の発行（青少年健全育成推進事業（教化活動広報）記載）
- ④臨床仏教公開講座開催（青少年健全育成推進事業（臨床仏教研究所））
- ⑤「おおぞら奨学基金」の設立・運営（災害支援事業 記載）
- ⑥創立50周年記念表彰（表彰事業 記載）
- ⑦創立50周年記念式典・祝賀会開催

※日 時＝平成25年11月5日（火）

※会 場＝東京都千代田区・帝国ホテル

※記念式典＝第37回正力松太郎賞表彰  
全青協創立50周年記念表彰  
・加盟教団感謝状贈呈  
・特別賛助会員感謝状贈呈  
・読売各社感謝状贈呈

※清 興＝・雅楽（増上寺雅楽会）

・ソプラノ独唱・重唱（秋山理恵・齋藤希絵・増田浩子・湯川亜也子・森田真帆）

※参 加 者＝200名